

通常の学級における 特別支援教育の視点を取り入れた 授業づくりの進め方

山口県教育委員会では、特別な支援を必要とする児童生徒を含めたすべての児童生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業づくりを推進しています。

本リーフレットでは、特別支援教育の視点を取り入れた、学習指導案の作成のポイントや、授業づくりの進め方について紹介しています。すべての児童生徒の学力向上と豊かな心を育てる取組に役立ててください。

「わかる」「できる」を 実感できる授業づくり

- ・ユニバーサルデザインを意識した
一斉指導の工夫
- ・学習上の困難さに応じた個別的な支援



落ち着いて過ごせる 教室環境(学習環境)づくり

- ・集中しやすくする
- ・トラブルを防ぐ
- ・見通しをもちやすくする



一人ひとりを大切にする 学級経営

- ・互いに尊重し合い、安心できる学級
- ・共に支え合い、主体的に学べる学級



全校教職員でつくる 校内支援体制

- ・適切な児童生徒理解
- ・計画的な支援
- ・保護者への支援



「わかる」「できる」を実感できる授業づくり

○特別支援教育の視点を取り入れて、特別な支援を必要とする児童生徒も含めた、すべての児童生徒が「わかる」「できる」を実感できる授業の実践につなげましょう。

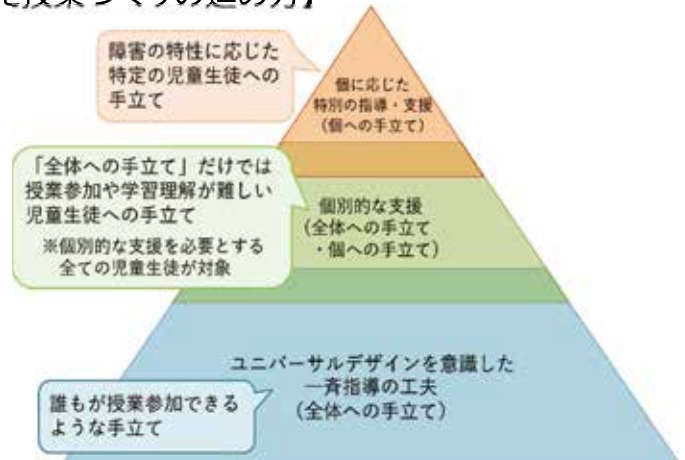
【通常の学級における特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりの進め方】

「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり」とは、

- A ユニバーサルデザイン*1を意識した一斉指導の工夫
「全体への手立て」
- B 学習上の困難さに応じた個別的な支援
「個への手立て」

を具体化し、授業づくりにおける「計画→実践→評価→改善」のサイクルを通して進めるものです。

*1 ユニバーサルデザインとは、「バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア(障壁)に対処する」との考え方であるのに対し、障害の有無、年齢、性別、人種等にかかわらず、多様な人々が利用しやすいよう都市や生活環境をあらかじめデザインする考え方



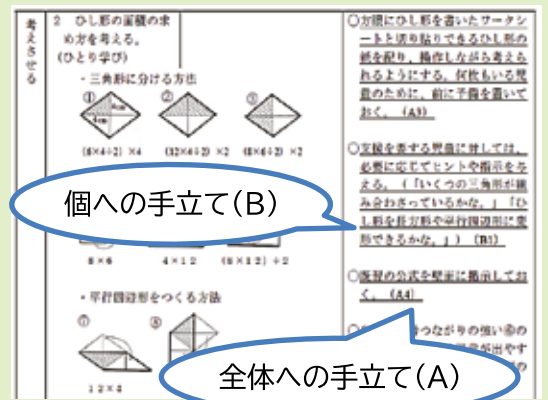
①ユニバーサルデザインを意識した授業を構想する。

学習上の困難さに配慮した授業づくりの3つのポイント

- ・人…ペア学習やグループ学習等による学習内容の共有、教師の適切なタイミングでの言葉かけ等の支援等
- ・物…視覚的教材や ICT 機器等の活用、ワークシートの工夫、個別のヒントカードの活用等
- ・場…見通しのもてる板書、学びの足跡がわかる掲示等

②学習指導案を作成する。

- ・指導案の本時の指導過程の「教師の働きかけ」の欄に、「全体への手立て(A)」、「個への手立て(B)」を明記し、下線を付す。



【計画】
学習指導案の作成・準備

③授業参観の視点を明確にする。(3つ程度)

- ・授業者は、指導案の本時の指導過程で下線を付した部分(手立て)の意図を説明し、参観者と共有する。

④授業参観しながら、「授業づくりアイデアシート」(p.3)に記入する。

- ・「有効だった全体への手立て(A)」、「有効だった個への手立て(B)」、「思いついた手立て」に分けてメモをする。



【実践】
授業実践・参観

⑤授業者は③で説明した授業参観の視点を中心に自評を行う。

⑥ワークショップ型の研究協議を行う。

- ・3~5人のグループで「授業づくりアイデアシート」に付箋等を貼る。
- ・「有効だった全体への手立て(A)」、「有効だった個への手立て(B)」、「思いついた手立て」について協議しながら、貼った付箋を分類したり、小見出し等を付けたりするなどして整理する。

⑦各グループから協議内容について発表し、全体で共有する。



【評価】
授業のふり返り

⑧授業者は、研究協議で話題となった新たな手立てを実践する。

- ・他の学級においても、有効と考えられる「全体への手立て」を実践
- ・他の教員も障害等による困難さに応じた「個への手立て」を実践

⑨研究協議後の実践の結果を校内で報告・共有する。

⑩授業改善の取組を、校内研修や保護者向け広報などで全教職員や保護者等へ広く発信する。

【改善】
指導支援の改善と普及

ユニバーサルデザインを意識した一斉指導の工夫の例

■ 学習の見通しのもてる板書



■ 様々な学習形態 <ペア学習>



<グループ学習>



<リーダー学習>^{*2}



■ 音の刺激を軽減する工夫



■ ICT 機器の活用

■ 学びの足跡 (掲示の工夫)

■ 誰もが参加できる発表の工夫

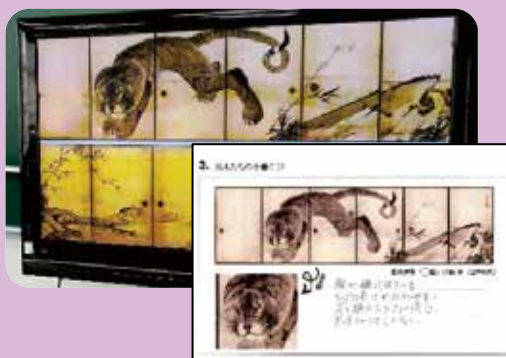


※十分に乾燥させたテニスボールを使用したり、室内の換気を十分に行ったりするなど、アレルギー疾患への配慮をしています。

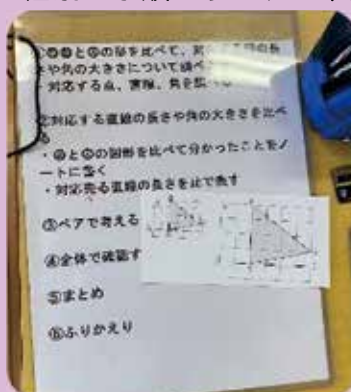
*2 リーダー学習は、複式学級における授業づくりの間接指導において取り入れられる学習形態の一つです。リーダーとなる児童生徒が学習を展開できるように手順表(進行表)を示したり、活動時間をタイマーで示したりするなどにより、特別な支援を必要とする児童生徒を含めたすべての児童生徒の授業参加や学習理解を可能とします。

学習上の困難さに応じた個別的な支援の例

■ 板書や提示教材をノート、ワークシートと連動



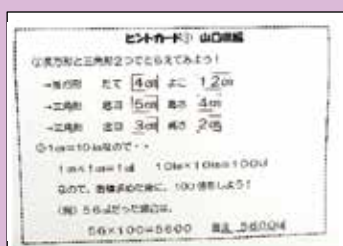
■ 個別の手順プリントの準備



■ 具体物、絵、カード等の活用



■ ヒントカードの活用



■ 困難さに応じた ICT 機器の活用 (タブレット端末を活用した読み上げ)



<「授業づくりアイデアシート*3」の書き方> (記入例)

参観の視点を記入
(3つ程度)

教科・単元名		主眼		
2年 算数・「三角形と四角形」		図形の一部を見てどのような図形か予想するクイズに答えたりする活動を通して、構成要素に着目する図形の捉え方の理解を深める。		
記入方法：○有効だった全体への手立て / ●有効だった個への手立て / ☆思い付いた手立て				
本授業で工夫・配慮したポイント (個や集団への手立て)				
授業構成 (めざしたい キーワード)	人【学び合いの工夫】	物【教材・教具の工夫】	場【板書の工夫】	
準備 (安心・安全)	○最初は机の上スクリ 体験	○クイズボード、マグネットシート 司会カード 何事もお互いにわかるように作り	○開始時刻の視覚化	
導入 (モチベーション)	○4年生のクイズ	○言葉では上手く伝えられなくても書き込むことで伝えられる。	○定義を確認できるシートが黒板に →動いた方がわかるものは電子黒板で	
展開 (主体的な活動)	○クイズ形式→考えやすくする。 ●操作で説明しやすい。 ○ワークシートに予想がわかる。	●ヒントカードの活用 ○ワークシートの工夫 ・ドットがある・ない →自分で選べる。	○先っぽ→算数の言葉とちゅう点 言い換え→板書→マーフ ●タイマー	
まとめ (達成感)	○定義を何度も確認する ☆辺とちゅう点の関わりを 着目できるようにする。	教具の準備と ルーティーン		

「令和2年度通常の学級における授業づくりセミナー」
研究協議時の記録シートより

■準備時(授業者による記入)

- ①教科・単元名及び主眼を記入する。
- ②授業の参観の視点(○)を3つ程度記入する。
※参観の視点は、「人」「物」「場」以外でもよい。参観の視点が2つの場合は、空欄の部分に、参観者が参観の視点を書くようにする。

■参観時(参観者による記入)

- ①「有効だった全体への手立て(A)」を「●～」、「有効だった個への手立て(B)」を「○～」、参観者が「思い付いた手立て」を「☆～」として記入する。
- ②授業構成の「準備」、「導入」、「展開」、「まとめ」(□)の段階ごとに、①の内容について記入する。
※授業構成の各段階で示す()書きのめざしたいキーワードは、授業を改善する際の観点として示したものである。そのキーワードを参考に記入する。

■授業のふり返し時(研究協議での活用)

- ①協議用に拡大印刷したシートを準備し、グループ内での意見を記入し、内容を整理する。
※付箋等を使用してもよい。

*3 平成27年度やまぐち総合教育支援センターふれあい教育センター単独研究
「通常の学級における子どもの特性に配慮した学級づくり・授業づくりに関する研究-合理的配慮の視点を踏まえて-」
参考

落ち着いて過ごせる教室環境(学習環境)づくり

○教室環境の工夫がなぜ必要なのか、教職員全員で共有しましょう。

Q 教室の前面掲示をできるだけシンプルにするのはなぜでしょうか？

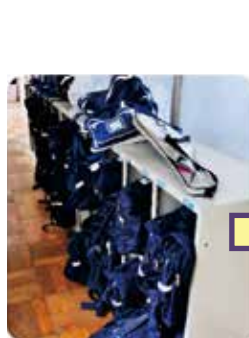
A 黒板やその周辺の視覚刺激を減らすことで、授業中、子どもたちが必要なところに注目でき、集中しやすくするためです。



○発達の段階に応じて、子どもたちが自ら教室環境を整えていく力を育てていきましょう。

Q 教員が、全ての環境を整えていくことが求められているのでしょうか。

A 子どもが見通しをもち、安心して落ち着いた学校生活を送ることができるために、整理整頓などを心がける態度を育てるなど、自ら環境を整える力を育てることが大切です。子どもたちの安心は、友だちとの良好な人間関係にもつながります。



※十分に乾燥させたテニスボールを使用したり、室内の換気を十分に行ったりするなど、アレルギー疾患への配慮をしています。

一人ひとりを大切にする学級経営

○子ども一人ひとりの学びのプロセスを把握し価値付けていくことで、子ども自身が自分や学級の友だちの学びの過程を把握できる力を育みましょう。

<めざしたい学級像>

- * 学びの足跡(掲示の工夫)があり、共に支え合い、主体的に学べる学級
- * 子ども一人ひとりの良さを大切にできる学級
- * 思いを聞き合い、伝え合い、互いに尊重し合い、安心できる学級
- * 友だちの学びの状況に気付き、自分の学びに生かせる学級

温かい言葉かけ

支持的な風土

多様性の尊重
(子ども同士の理解)



全校教職員でつくる校内支援体制

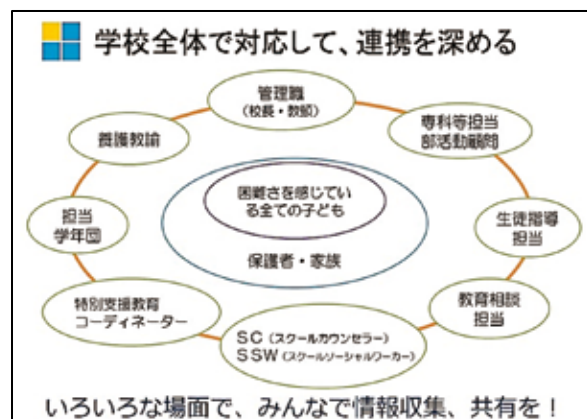
○教職員同士が、互いに相談し合える組織づくりと、円滑な情報共有を行い、子どもと保護者を中心とした全校体制での計画的な支援を行いましょ。

Q 保護者から合理的配慮の提供について相談がありました。どのように対応したらよいですか。

A 保護者の相談の主訴を丁寧に聞き取り、校内の先生方と情報を共有した上で、学校全体で支援の方向性を決定し、保護者と連携・協力しながら子どもの困難さを改善していくことが大切です。また、保護者だけでなく本人の意思を確認・尊重することも大事です。

保護者『対応』から保護者『支援』へ

① 思いを受け止める 言葉の奥の	寄り添う
② 必要なことを伝える 十分検討してから	丁寧に
③ ともに取り組む 理解し合い	学校で、家庭でできることの 再点検→連携



ふれあい教育センター研修資料より

「全校教職員でつくる校内体制」づくりのための参考資料

山口県教育庁特別支援教育推進室



- P3 教室環境(学習環境)チェックリスト
- P4 学級経営チェックリスト
- P5 障害の特性等を踏まえた一斉指導の工夫
- P6 障害等による困難を軽減するための個別的な支援や配慮
- P7 組織支援チェックリスト

※巻末の【参考資料一覧】に QR コードがあります。

調査研究成果物『学級マネジメントプログラム』の紹介

やまぐち総合教育支援センター

ふれあい教育センター

学級マネジメントプログラム公開中！！

どうしたらいいのかな...

学年相応の課題を解くことが難しい

ペアやグループでの活動が難しい

衝動的な言動を抑えられない

そんな先生方に...「インクルポケット」！
子どもの状況に応じた指導・支援の手立てを提案します！！

お手持ちのスマホ・タブレット端末等から、気軽にアクセス！！

学級マネジメントプログラム × 検索

<https://shien.ysn21.jp/joho/cgi-bin/wp-incl/>

平成30年度、令和元年度に行った調査研究「通常の学級における子どもの特性に配慮した学級づくり・授業づくりに関する研究Ⅱ」の成果物として、「学級マネジメントプログラム」を作成し、「いつでも・どこでも・誰でも」必要に応じて入手できるように、当センターウェブサイトで公開しています。(スマホ・タブレット可)

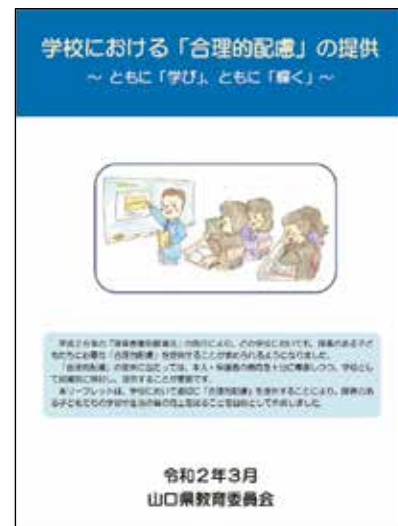
指導・支援の手立て集である「インクルポケット」は、困難さを感じている子どもの背景要因に目を向け、考えられる要因ごとに具体的な支援の方法を提案しています。積極的な活用をお願いします。



～授業づくりと「合理的配慮」の関係～

学校で提供される「合理的配慮」とは、一斉指導の中で可能な限り共に学ぶ(参加の保障をする)ために過度の負担を課さない範囲での、必要かつ適当な配慮のことです。

ユニバーサルデザインを意識した授業づくりを進める中で、学習活動に参加している実感がもちづらい子どもに対して、学習上の困難さに応じて、必要な「合理的配慮」を提供することが求められます。



教育分野における「合理的配慮」の定義

障害のある子どもが、障害のない子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有し行使することを確保するために

- 学校の設置者及び学校が行う、必要かつ適当な変更及び調整のこと
- 障害のある子どもに対し、その状況に応じて、個別に必要とされるもの
- 学校の設置者及び学校に対して、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの



特別支援学級における授業づくり

特別支援学級における授業づくりにおいても、特別支援教育の二つの視点(「全体への手立て」「個への手立て」)を取り入れるとともに、**教員と子どもとが良好な関係を築きながら、子どもの実態に応じた題材設定、教材・教具の活用、自立活動の目標や指導内容を取り入れた授業づくり**を行うことが大切です。

特別支援学級の授業づくりを行う際には、「授業づくりアイデアシート」を活用し、各教科の内容や、個別の障害等に応じた指導の内容等について協議し、授業改善を図ります。



本リーフレットは、平成30年度から3年間にわたって開催した「通常の学級における特別支援教育授業づくりセミナー」の実践校10校の取組をもとに作成しています。

【授業づくりセミナー実践校】

＜平成30年度＞

- ・光市立三輪小学校
- ・美祢市立伊佐小学校
- ・山口市立小郡中学校
- ・下関市立文関小学校

＜平成31年度＞

- ・宇部市立岬小学校
- ・萩市立むつみ小学校
- ・岩国市立由宇中学校
- ・周南市立岐山小学校
- ・山陽小野田市立小野田中学校

＜令和2年度＞

- ・下松市立東陽小学校

【授業づくりセミナー指導助言者】






＜山口大学教育学部＞

- ・教授 松田信夫 氏
- ・准教授 須藤邦彦 氏
- ・講師 宮木秀雄 氏

【授業づくりセミナー協力】

- ・やまぐち総合教育支援センター
ふれあい教育センター

【参考資料一覧】 ※QRコード及び下記URLよりダウンロードできます。

資料名	目的・内容等	QRコード
授業づくりアイデアシート	校内の研究授業等において、授業参観や研究協議の際に活用するためのシート（ワード版）	
通常の学級における特別支援教育の充実のために	通常の学級における学習環境や授業づくり、個別的な支援や校内体制づくりのための参考資料（チェックリスト形式）	
学校における「合理的配慮」の提供 ～ともに「学び」、ともに「輝く」～	学校における「合理的配慮」提供のプロセスや各学校の実践事例など、適切な「合理的配慮」を提供するための参考資料	
よりよい「交流及び共同学習」を進めるために ～共に生きる社会をめざして～	「交流及び共同学習」の意義や進め方の工夫など、各学校の「交流及び共同学習」の充実を図る参考資料	
高等学校等における特別支援教育	校内の特別支援教育推進のポイント、主体的な授業参加や二次的な障害の防止等の事例など、高等学校での支援の充実のための参考資料	

＜ダウンロード先：山口県教育庁特別支援教育推進室URL＞

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a503001/induction/text.html>

【問い合わせ先】 山口県教育庁特別支援教育推進室 TEL 083-933-4615

令和3年3月発行

※本リーフレットは、令和2年度国立特別支援教育総合研究所事業「特別支援教育担当教員の資質向上に向けた人材育成プロジェクト」により、作成しています。